

様式 F - 7 - 1

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成29年度）

所属研究機関名称		大妻女子大学	機関番号	32604
研究代表者	部局	人間関係学部		
	職	教授		
	氏名	大出 春江		

1. 研究種目名 基盤研究(C)(一般) 2. 課題番号 17K04151

3. 研究課題名 日本の出産文化の歴史社会学的研究 リプロダクティブヘルスと助産所の機能を中心に

4. 補助事業期間 平成29年度～平成31年度

5. 研究実績の概要

2017年度は研究代表者、研究分担者、研究協力者間の相互の研究交流を深め、それによって研究の方向性の具体化と深化を図り、その共有に努めた。具体的には研究会の開催とメールでの連絡を密にし、これと並行する形で資料の収集も進めた。各自のネットワークおよび日本助産師会から全国47都道府県の助産師会に呼びかけを研究協力者である岡本を中心におこなった。

本来ならば研究の方向性を確定した後に資料収集をおこなうべきところであるが、これらを並行しておこなったのには理由がある。最大の理由は有床助産所の減少が2009年の医療法改正以降、加速化しており、開業助産師に関する情報が集めにくいこと、さらには地域における開業助産師の歴史資料の保存に向けた意義が十分に浸透していないという状況がある。このため、開業助産師の活動と助産師会（産婆会・助産婦会時代を中心とする）に関する情報は広く提供して頂くという形をとった。

この依頼に対し、資料の情報および提供を頂いたのは次の2府5県である。宮城県、千葉県、長野県、鳥取県、愛媛県、大阪府、京都府。これらの資料は今年度すべてpdfファイルとして保存する対象として作業を進めた。この中で特に大阪府助産師会保管資料と京都府助産師会保管資料が質量ともに重要である。特に京都府の場合は明治中期から地域別の産婆名簿が保管されていること、1936年大日本産婆会開催にかかわる資料が大変よい状態で保存されており、電子化されたファイルをもとに、これから分析に入る予定である。大阪府は書籍が中心であるが、昭和初期の産婆会組合誌と堺市産婆会主催の赤ちゃん審査会写真帖が保管されていた。これらはいずれも公的な図書館のどこにも保管されていない貴重な資料である。宮城県の資料も量的には少ないながらも戦中から戦後の混乱期の資料が遺されており、京都府の資料と組み合わせるこれから研究していく予定である。

6. キーワード

産婆 助産婦 産院 助産所 リプロダクティブ・ヘルス 出産 医療化

7. 現在までの進捗状況

区分 (2) おおむね順調に進展している。

理由
 出産の医療化論、リプロダクティブ・ライツ/ヘルス、ケアの倫理にかかわる理論的整理、大阪府助産師会館の所蔵資料の確認とデジタル化（当初は実質作業を平成30年度に実施予定だった）、九州3県の助産師会館への訪問と所蔵資料の確認、東京、大阪を中心とした地域の開業助産師（産婆）に関する情報収集とインタビュー調査を予定していた。

東京での研究会（4回）、京都での研究会（2回）を通じて研究代表者と研究分担者と研究協力者との情報と問題関心の共有を図るとともに、日本助産師会の協力のもとに全国の都道府県助産師会に戦前期および1980年代までの資料の収集を呼びかけ、宮城、千葉、長野、鳥取、大阪、京都、愛媛の資料の収集・デジタル化を進めることができた。九州3県の訪問は中止した。は千葉の元助産師会長ご遺族に実施することができた。

平成29年度の収集資料のうち、京都助産師会館の保管資料は戦災に遭わず明治期から保管されており、重要書類がいくつも残っていることがわかった。このため、当初は日本全国から資料を収集することを予定したが、京都資料を中心に整理をし分析することを最優先することにした。資料の収集と並行して、その内容を踏まえ研究方向を軌道修正をした。京都の資料は産師法制定運動がさかんになった大正末期から昭和10年代までが中心になっており、今後、これらの資料に関し研究参加者の間で共有し分析テーマを地域性を反映させて設定していく。

以上の通り、資料収集の呼びかけ、先方とのやりとり、資料の電子化をおこなった関係で、に関するリプロダクティブ・ライツ/ヘルスとケアの倫理に関する理論的研究はより展開していかなければならない。～についてはおおむね順調に進行しているといえる。

1 版

8. 今後の研究の推進方策

平成30年度は、出産の医療化論、リプロダクティブ・ライツ/ヘルス、ケアの倫理に関わる理論の整理と検討、デジタル化した資料を用いて、大阪府、京都府、愛媛県、宮城県の資料を中心として戦間期における産婆会の組織化を健康保険制度と社会事業という文脈において記述・分析していくことを目的とする。これと並行して、東京を中心とした産婆会と戦後助産婦会にかかわる資料収集もできるだけ進めていきたいと考えている。

九州は、2 県の助産師会館への訪問と所蔵資料の確認、デジタル化に向けた準備作業を行う。

～ だけでも研究時間の大半が費やされる予定であるが、しかし、戦前期の産婆大会が九州で行われていたため、現時点で可能な限り、産婆関連資料が残されていないかを調べる予定である。2017年度でいえば、個人の開業産婆（戦後は開業助産婦）が保管し、愛媛県立民俗文化博物館に寄贈された資料群のなかにくつもの公文書が含まれていた。こうしたことから産婆会としてだけでなく、個人保管の資料の可能性も継続して探ることにしたい。

研究の進捗状況や内容検討を含む情報の共有のため、東京と大阪において研究会を5回実施する予定である。またインタビュー調査を開東に在住する助産所嘱託医である産婦人科医師と小児科医師各1名を対象に実施する予定である。

9. 次年度使用が生じた理由と使用計画

戦前から1980年代までの産婆・助産婦関連資料の収集とデジタル化は全国を対象に広く行う予定で、九州地方や北陸方面も念頭に旅費および人件費・謝金を計上していた。しかし、大阪府と京都府はももとの近代産婆教育が明治期から熱心におこなわれた地であることと、戦争による焼失をまぬがれた京都府の資料が豊富であったため、これらを丁寧に資料整理をおこない、デジタル化も時間を要することがわかった。そのため、当初計上していた旅費および人件費・謝金は2017年度では執行せずに2018年度に持ち越すことになった。

10. 研究発表（平成29年度の研究成果）

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 大出 春江	4. 巻 Vol. 71 No. 4
2. 論文標題 産婆・助産婦の歴史資料の電子化とその意義	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『助産師』	6. 最初と最後の頁 48-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大出 春江	4. 巻 No.19
2. 論文標題 児童保護運動が健民運動に変わるまで：赤ちゃん審査会とその機能を通じて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大妻女子大学人間関係学部紀要『人間関係学研究』	6. 最初と最後の頁 21-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 岡本 喜代子	4. 巻 Vol. 71 No. 4
2. 論文標題 「柘植アイ賞」の創設の意義と柘植アイ先生の生涯	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『助産師』	6. 最初と最後の頁 46-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部 奈緒美	4. 巻 Vol. 64 No.2
2. 論文標題 昭和初期における「望ましい」産婆のあり方 大阪の指導的産婆・三宅コタミの発言と著述をもとに	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 家政学研究	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 大出春江
2. 発表標題 産婆と産院の歴史と現代の出産
3. 学会等名 市民アーカイブ多摩主催 『緑陰トーク』 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大出春江
2. 発表標題 産婆の歴史への接近 - 社会学の視点から
3. 学会等名 『母子と助産師の日イベント 産婆・助産婦の歴史への接近』 村松志保子助産師顕彰会主催 高忍日賣神社 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1 版

1. 発表者名 松岡悦子
2. 発表標題 Emphasis on Postpartum Period in Japan. Panel titled "Growing Attention to Postnatal Period in East Asia."
3. 学会等名 The East Asian Anthropological Association 14-16 October 2017, The Chinese University of Hong Kong. (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松岡悦子
2. 発表標題 グローバルヘルスとアジアの出産
3. 学会等名 全南大学校日本文化研究センター 第12回国際学術シンポジウム(韓国) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松岡悦子
2. 発表標題 地域に根付く伝統や風習が健康格差に与える影響 - リプロダクティブ・ヘルスを例に -
3. 学会等名 『グローバルヘルス合同大会』東京大学医学部
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松岡悦子
2. 発表標題 アジアの出産を見る - ジェンダーの視点から
3. 学会等名 『東北並びに女性視角研究検討会』大連外国語大学11教B区301室、中国 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松岡悦子
2. 発表標題 戦前の産婆たち - 柘植アイ、岩崎なお
3. 学会等名 東京都助産師会館財団（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松岡悦子
2. 発表標題 産婆の歴史への接近 - 文化人類学の視点から
3. 学会等名 『母子と助産師の日イベント 産婆・助産婦の歴史への接近』 村松志保子助産師顕彰会主催 高忍日賣神社（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊賀みどり
2. 発表標題 出産の民俗学 - 現代の助産院の事例より -
3. 学会等名 日本民俗学会第69回年会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 伊賀みどり
2. 発表標題 産婆の歴史への接近 - 民俗学の視点から
3. 学会等名 『母子と助産師の日イベント 産婆・助産婦の歴史への接近』 村松志保子助産師顕彰会主催 高忍日賣神社
4. 発表年 2018年

1版

〔図書〕 計3件

1. 著者名 松岡 悦子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Waveland Press	5. 総ページ数 246-249
3. 書名 Tomoko: A Postmodern Japanese Midwife. In Ways of Knowing about Birth. Selected writings by Robbie Davis-Floyd and colleagues.	

1. 著者名 松岡 悦子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 79-81
3. 書名 「コラム グリーフケアとしての通過儀礼」 『グリーフケアを身近に - 大切な子どもを失った悲しみを抱いて』	

1. 著者名 伊賀みどり	4. 発行年 2018年
2. 出版社 国立歴史民俗博物館	5. 総ページ数 208
3. 書名 『助産院・助産師資料目録』国立歴史民俗博物館資料目録[12]	

1 1 . 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

計0件（うち出願0件 / うち取得0件）

1 2 . 科研費を使用して開催した国際研究集会

計0件

1 3 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

-

1 4 . 備考

-